

あか ちょうちん

## 赤い提灯

だい いち ぶ

### 第一部

ちち しんぶん よ むずか はなこ まさる がっこう  
( 父は 新聞を 読みながら 難しい 顔を している。花子 と 優が 学校  
か  
から 帰って来る ) 。

花子～優：お父さん ただいま。お母さん ただいま。

母： はい。お帰りなさい。

とけい み こえ たか い  
( 父は 時々 時計を 見ながら おこっている。声 高くに 言う ) 。

父： 健一 の やつ、まだ 学校から 帰らんのか。また どこかで わ  
るさを している のだろう。きのう となりの なしを ぬすんだ  
のは、健一に ちがいない。しかたが ない 子 だ。いよいよ こ  
まった やつじゃ。

健一： お父さん ただいま。

まえ じかん わす  
父： お前 どこに おったの。帰る 時間を 忘れたのか。  
ぼく

健一： いいえ。。。僕は。。。 ( もじもじ する )

きんじょ はなし  
父： だまって きくんだ！ きのう 近所の なしを ぬすんだ 話が あ  
ぬ  
ったが 盗んだのは おまえだろう。

健一： でも。。。お父さん。。。

( 健一は はずかしい 顔つきで もじもじ している )

父： それだけでは <sup>きょう</sup> ない。今日は <sup>せんせい</sup> お前の <sup>てがみ</sup> 先生から <sup>とど</sup> 手紙が 届いている  
。先生は お前は 長いこと  
学校へ行ってない て 書いている。お

前より 父さんが 人に わらわれているんだ。はずかしくて たま  
らん。となりに 行って あやまって こい。

<sup>ちゃ</sup> <sup>も</sup> <sup>で</sup>  
( 母は お茶を 持って 出てくる )。

健一： でも。。。お父さん。。。あの。。。

父： ばか！ 行って来いて 言っただろう！行かなかつたら <sup>ひとばん</sup> 一晚 ミー归 の  
<sup>こや</sup> <sup>ね</sup>  
小屋 で 寝させるから。

( 健一は もじもじして こまっている )

母： 健一 はやく 行きなさい。

花子： お母さん <sup>はん</sup> ご飯。。。。

母： はい。健一 あやまって来るのですよ。 お父さんは <sup>いま</sup> おこって  
<sup>しんぱい</sup>  
いるけど <sup>すぐ</sup> もとの お父さん に もどるから 心配なしで あ  
やまりに行きなさい。さ、行くのですよ。。。

<sup>いえ</sup> <sup>で</sup> <sup>おも</sup>  
( 健一は 家を 出してから 思う )

健一： 僕は あやまらない。あの わるさを したのは 僕では ない。一晚  
ぼく へいき  
小屋で 寝かせる なんて 僕は 平気だ。しかし、お父さんの はじ  
みんな  
に なったと 云われた。もう そんなに 皆に 心配 かけたくない。

## 第 二 部

すうじかん ある  
( 数時間を 歩いた 健一は つかれている )。

あさ はや ある  
健一： ハア...朝 早くから 歩くと つかれるなあ。。。ミ-リヨの 小屋で 一  
よなか に  
晩 寝かせられて ひどかった。。。でも 夜中に 逃げて よかったな  
こんど す こと  
あ。今度は なんでも 好きな事をやれる。。。。はらが へってきた  
べんとう  
。。。弁当をもってくるのを わすれた。。。

ほうこう  
( ちょっと 方向を見る )

あそこに あるのは いちご畑ではないか。。。  
いっかい

( もう 一回 方向を見る )

だれ  
誰もいない。。。少し盗っても かまわないだろう。。。  
ばたけ はい と た

( いちご畑に 入って盗る。食べながら 言う )

とき  
はらが ぱくぱくの 時には なんでも おいしいね。 そうだ。。。僕は  
く じょうず  
どろぼう のように ぬすみながら 暮らそう。僕 上手だから かんた  
んに できるだろう。

あら！ ハンドバクを 持っている おばあさんが 見える。たくさん 金が  
入っていそうだなあ。。。。

(ぬすんで にげる)。

おばあさん： どろぼじゃ。。どろぼじゃ。。たすけて。。。

健一： ばあさんから 盗むのは かんたん。。なに はいつているか。。

なんだ たった 5 reais と jogo do Corinthians no entrada  
と。。 あれ！どこそこ(地元) の えんげいかい 演芸会 の しょっけん やきそば 食券。  
あ。。。。あの ばあさん。。。。 げき の あと やきそばを たべ  
にいくのか。。よし。。corinthiana だから 僕が やきそばを 食  
って やろう。。

(金を 取って ハンドバクを すてる)

あら！ 今度は おかねもちの おとこだ。。どこそこ(地元)  
の 青年会委員長 が palmeirense の りっぱな 青年だ。

(青年の そばに 近寄って)

すみません。。今は 何時ですか。。

青年： 今は 6時です。

(サイフを とる)

健一： ありがとう おじさん。。

青年： あら！ サイフが ない。。こら、 かえそ！ まあ いいわ。。金

なかったから。。。誰々会長の 5まいの cheque sem fundo  
が あった だけです。しかし、かわいそうな 子 だなあ。

### 第 三 部

あか

( 母は 赤ちゃんの おしめを とりかえている。どろぼうが 入ってくる )

おおがねもち

こんばん

どろぼう：おお。。。このへんは 大金持ちの家が あります。今晚も たくさ  
かね こうか  
んの 金と高価 のものを ぬすんで 帰ろう。

( 家を 見ながら )

だいじょぶ

これは 金持ちの 家だ。この家なら 大丈夫。

まど

( 家の 窓からのぞいて )

ちちおや

おんなひとり こども つごう

おれ

父親が いなくて 女一人と子供なら都合が よい。俺には へっち  
やら だ。

ふたり

このへんで 二人が ぐっすり 寝るのを 待つ だけじゃ。

はや やす

女の人：ボウ、今日は お父ちゃんが いないから 母ちゃんと 早く休みま

しょうね。さ、さ、もう はらいっぱい 母ちゃんが ちちを のませ  
てやったし、おしめも きれいのを きせてやったし、 さ、ねん  
ね するのですよ。。。よいこ よいこだ。。。。

。。。ボウが 母ちゃんの子として このうちに 生まれて 父ちゃん と

ほんとう しあわ

母ちゃんは 本当に 幸せです。

こもりうた うた はじ

( 女の人 は 子守唄を 歌い始める )

女の人：ねんねころりよ おころりよ

ボウは いい子だ ねんねしな

どろぼう：おお。。。なんと なつかしい 唄だ。。。

女の人：ボウの 子守は どこへ 行った

あの 山 こえて さとへ 行った

へや

( 女の人 は 子供をつれて 部屋へ 行く。どろぼうは ほうかぶりをとる )

じぶん

どろぼう：自分も おさない 時に お母さんに あのよう<sup>き</sup>に だかれて あの

子守唄を 聴きながら 寝かせられたのだ。。。

ああ。。。お母さん すみません。。。母は どうしているだろう  
か。。。あのころの 僕を おぼえているだろうか。

あ

会いたいなあ お母さん。。。

( ほうかぶりを ポケットに入れるとき ピストルに手があたる。ピストルを取って  
じっと 見ながら 言う )

にんげん

俺は、いつのまに こんな なさけない 人間に なってしまった  
のが。

つきひ

かなら

ああ、お母さん。。。長い 月日が たちましたが 俺は 必ず

ただ

たっしや

会いに行くぞ。正しい 男となって 帰って見せるから。。。達  
者で 待っておくれよ。。

## 第 四 部

かぞく                      しょくじ                      たびびと  
( 家族 三人で 食事をしている。旅人が 入ってくる )

旅人：俺の 家族を ずいぶん 探して歩いてみたが なかなか みつかりやせ  
はんざい      せいかつ                      たず  
ん。犯罪の 生活を やめて あちら こちらへと 訪ねましたが 誰も  
知らない家族 なのです。

い    あ  
生きておったら 一度はきつと。。。もう二度と 逢えない

母 なんだろう。。。

めし  
家を出たとき 飯を もらいに行くのが はずかしくて たまらなかった  
。    いっしょう

今は なによりも 親を さがすことを 自分の 一生 ときめたから  
た                      しんせつ                      せわ  
食べるのは ご親切な人の お世話 に ならなければ ならないのです  
。    いただ  
さ、おながが すいてきたから どっかで 飯を 頂けるだろうか。。。

( まずしそうな 赤い提灯の 家の 方へ行く )

旅人： ごめんください。

優る： どちらさまですか。

旅人： あの。。。実は。。。旅人ですが、 おなががすいているので 何か  
た      もの  
食べ物を 頂けませんでしょうか。。。うでは まだ じょうぶで ど  
しごと  
んな 仕事にでも まにあいます。

優る： ちょっと 待って 下さい。お母さん 旅人ですよ。 はら へっ  
てるそうです。

母： さ、おはいりなさい。今 ごはん 御飯を た はじ 食べ始めたので、いっしょ 一緒に食べましょ  
う。どうぞ おあがりください。

旅人： ありがとう

( 御飯を もって さっそく 食べる )

母： あなたは この村の 人ではないようですね。。。

旅人：いいえ。 私には 家族いないのです。父母から はなれて ずいぶん  
はんざいしゃ  
にります。 今まで 人をぬすんだり、だましたり、 犯罪者 の生活を  
さ  
いとなんてきた自分です。目が覚めて 母が なつかしくなったのです。

母： それはお母さんが なつかしくなって よかったね。なんと かなしい  
うんめい

運命ですね 旅人さん。

ちょうなん

私の 長男も 家から出て 長いことなります。

父に 一晚 そとの小屋に 寝かせられて そのまま 帰ってこないの  
しゅじん むら まち たず しつぽう  
です。私と主人は 村や 町を あちこち 訪ねましたが 失望の つづけ  
ばかりです。

主人は 私に：“俺が 死ぬ前に 健一に 会えなかったら 父さんをゆ  
あい  
るして、自分の きびしい 愛を わかって おくれ”と 言って なく  
なったのです。

( 健一 は おどろく。花子は 健一の方へ向く )

その時、食べるものが なくて まだ 5つ になったばかりの うちの  
おおかねもち しょうばいにん すみ子を 大金持ち の  
商売人にうったのです。 しかく うしな  
しかく

それから 私は だんだん 視覚を失って、なにも 見えなく なってし  
はたら ほんとう  
まいました。あのころの 二人の 小さい子供を 働かせたのは 本当に  
とおい す  
すまないと思っています。とうとう この 遠い 村に 住みにきたので  
す。

花子： お母さん。。。そんな 話を して。。。  
うち

母： ごめんなさい。旅人さんと 話していると 家の健一の事を 思い出した  
のです。

(一時する)

でも 私には なによりも つらかったのは 帰ってこない 子供です。  
か もの よる  
健一が 子供の時に いつか 遠い 村に 買い物に行つて 夜に な  
つても 帰ってこなかった。その晩、 私は 赤い提灯 を持つて  
さが  
家の子供を 捜しに行つたのです。それから 夜になって 健一が 帰ら  
ひ つ  
ないとき 必ず 提灯に火を点けて 待つのです。この長い あいだ 健  
く ごはん と  
一を待っている うちに 日が暮れたら あたたかい御飯を取つておいて  
そと もり  
外に あの 赤い提灯 に 火をつけて 待っていたのです。くらい 森  
なか こえ とど なまえ

の中を 見つめながら 声が届くまで子供の名前を よんだのです。

健一が はよう 帰ってくるように。。。はよう 帰ってくるようにと

なんども 外で 祈りました。。。それから もう 20年の 長い 月日

が たちました。

な

(健一 は 顔を かくしながら 泣き出す)

くろう

そのあいだ 健一は どんな 苦勞をしたのか、おなかが すいた時、食

さむ

べ物をくれる人が いたであろうか、 寒いときに あたたまる ふとん

ねつ

み

が あったであろうか、 熱が出たときに 誰が うちの 健一を 見て

げんき

し

くれたのか、元気であるのか、 もう死んで、おらんのかと むだな 心

むすこ

配を 今まで してきたのです。目の見えない 私には 息子の

苦勞が よう わかるのです。

花子：旅人さん。。。 あなたを よく見ると 私の お兄さんに にている

ところが あります、しかも。。。。

ぜつたい まちが

みなさま

旅人： いいえ。。。絶対に 間違いです。私は 見たこともない 皆様です。

ご。。。ごめんください。。。。

おおいそ

(健一は 大急ぎで出て行く)

にい

にい

ちが

花子： お兄さん！ お兄さん！。。。お母さん。。。あの人お兄さんには 違

いない。 きっと そうです。

母： 健一！ 健一！

とぐち

(健一は 戸口で言う)

つみぶかい はんにな

す

旅人： 罪深い 犯人と どろぼうの 自分は 捨てた皆様に お目にかかるこ  
ゆる

とはできません。 許して おくれよ お母さん。。。

さき みじか

母： 健一、お前は 本当に 帰るのなら 先の短い 母さんに 一度でも お前

を だきしめさせて おくれ。母さんには どろぼうの 健一も わるい

子もいないのです。 私が 20年ぶりに 待っていた 子供の そばに

よらせておくれ。。。

あ なみだ な

(一時してから 健一は 戸を開けて 涙を流しながら 自分の 母の  
方を見て。。。

健一： お母ああさん。。。。

母： 健一！

花子：おにいさん！

優る：おにいさん！

。。。。しっかりと だきつく)。 (家族 四人で だきつきます)。

終

1977年5月8日に 枡口生長の家子供会の 母の日祝いに初公演

著作：金親 慶彦